

第15回

うらうす夏の味覚まつり

浦臼の夏と味覚を楽しむイベントです。浦臼産黒毛和牛やエゾシカ肉をはじめ、地元の野菜、加工品などが味わえます。また、参加型のイベントも多数用意されております。祭りの締めくくりには花火が打ち上げられます。町民のみなさんのご来場をお待ちしております。

8/2日

午前11時00分～午後8時30分

鶴沼公園イベント広場

音楽ライブ、特産品抽選会ほか

主催 浦臼観光協会

お問い合わせ

浦臼観光協会事務局（役場産業課）電話：0125-68-2114

うらうす夏の味覚まつり花火大会の寄付を募集しています

ご寄付いただける方は、観光協会事務局（役場産業課）までお待ちしております。（個人・団体・事業所等 問いません）

浦臼のチカラ

第1号

※「浦臼」のチカラで、地域の活性化を図るために、住民の力を活用し、交流の場を設け、地域力向上を目指す。

○米田 友紀（よねた ゆき）さん ○1980年生まれ
○千葉県出身
茨城県の大学を卒業後、2003年から12年間東京都内で広報やブランドマネジメント等の企画業務に従事し、2015年春に旦那さんが実家の金剛寺を継承することを機に浦臼町に移住。現在は、うらうすファーマーズ事務局を開設し農家イチオシの農作物の販売支援を行うほか、ハロウィン実行委員会やヨガ教室など地域活動にも積極的に取り組んでいる。

2024年7月号の広報うらうすより「うらうすぶんのひとりの夢」のライターとして22名の様々な思いを取材していただきました。



「うらうすぶんのひとりの夢」作成のきっかけ

はじめは、役場産業課が農作物のブランド化に取り組むため、総務省の地域力創造アドバイザー制度を活用したことですね。
生産者の思いを伝えるため、アドバイザーから「人物インタビュー」を行ってはどうか」という提案があり、広報紙での連載がスタートしました。当初は農家の方々を中心に取材していましたが、取材を重ねるなかで、浦臼町には地域への強い思いを持つて活動している方が数多くいることに気づきました。そこで、農業分野に限らず、さまざまな分野で活躍する方々へと取材の幅を広げていきました。

取材を通じて感じたこと

どなたにも地域への思いが強く印象的でした。
普段はたわいもない世間話しかしていないのに、取材となると地元への愛や地域をもっと良くしたいという思いを熱く語ってくれる方が多く、いい意味でこの町を諦めてない感じがありました。

取材を通じて、この町で生きている人の格好良さや誇りを感じましたね。

あなたにとって浦臼ってどんな存在？

自信を持って「我が町」と言えます。
東京に住んでいた頃は居住地の広報紙なんて見たこともありませんでしたが、この町では地域の人たちが自分たちの暮らし場所を知ろうとし、地域の情報にも自然と関心を持ちます。また、町民同士の距離が近く、深くお互いを知ろうとする温かい雰囲気があります。誰かに良いことがあればみんなで喜び、褒め合う。そんな素敵な環境が浦臼にはあると思います。

これから挑戦、やってみたいことは？

都市部で浦臼産の農作物をもっと広く紹介していきたいと思っています。
目指しているのは、「浦臼」という地名そのものをブランドとして育てていくことです。

「北海道産」という大きなくくりでも充分魅力的に感じてもらうますが、私は「浦臼産」にこだわりたい。我が町で育ったお米や野菜など、農産物の魅力を積極的に発信していきたいと考えています。
そして、それらを全国へ届けることで、「浦臼」という町の名前や魅力を知ってもらいつきかけをつくりたいです。

今後浦臼町がどんな姿になってほしいか

私は、浦臼にはまだまだ「地域力」が残っていると感じています。

その地域力は、神社仏閣の様子を見るとよく分かります。例えば、お寺の草刈りを行う際に、忙しい近所の皆さんが集まり、協力して作業を進めてくれます。移住当初の私にとっては、その光景がとても新鮮で驚きでした。

同じような人口規模の町であっても、その違いを生み出すのは「人」だと思います。地域を支えようとする人たちの繋がりが、浦臼の大きな魅力ではないでしょうか。

以前、浦臼小学校の前校長である和田先生を取材した際、「子ども一人ひとりと真剣に向き合える浦臼の環境は、全ての自治体でできるものではない」と話されていました。その言葉がとても印象に残っています。

子どもたちが自身が、その価値に気づくのはもう少し先かもしれませんが、将来、浦臼で暮らし、て良かったと思える町に、そして子どもたちが誇りを持てる町になってほしいと願っています。



（一昨年のハロウィン）